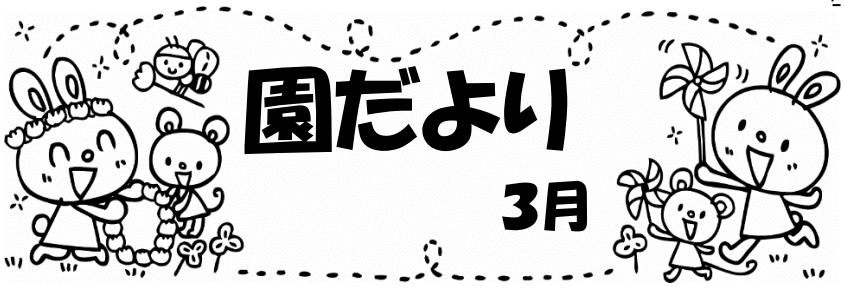
教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ



令和４年２月２８日
第５２８号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

子どもたちの心に豊かな表情を

先日の４歳児ちゅうりっぷ組の生活発表会は、オンライン会議アプリケーションを使った双方向のオンライン形式で行いました。生活発表会は、約１年間の子どもたちの成長した姿や、園生活の様子をご覧いただく機会です。会を実施するのが難しい状況ではありましたが、会場に設置した大型テレビ画面に映るおうちの方々に大喜びで手を振る子どもたちの姿を見て、保護者の皆様に子どもたちの様子をご覧いただき、かつ、子どもたちもおうちの方々に見ていてもらえるうれしさを感じるという、発表会で子どもたちに経験してほしかったことが、叶えられたのではないかと感じています。会場で直接ご覧いただくことができない中、保護者の皆様には多大なご理解とご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

今回の生活発表会では、ご家庭からの視聴など、可能であれば、保護者の方々にマスクを外してご参加いただきました。子どもたちは、画面に映る大好きなおうちの方の表情をよりよく見ることができ、おうちの方の気持ちもより強く伝わってきたように思いました。長く続くコロナ禍により、子どもたちは社会生活において、周囲の人の表情に触れる機会が激減しました。人は、相手の表情から多くの情報を得ます。相手の感情や考えていることを感じ取ったり察したりもします。幼いときほど、周囲の大人が表情豊かに子どもたちに接し、子どもたちには、あふれる愛情で包まれていることを実感してほしいと思っています。一つ口惜しく思うのは、まもなく園を巣立つ５歳児さくら組の子どもたちに、在園中の２年間、教師のマスクを外した表情をあまり見せてあげられなかったことです。この２年間、マスクをしていないとき以上に、子どもたちに向き合うときの表情やまなざしに気持ちを込めてきました。その都度こちらの気持ちはきっと届いていただろうと願いつつ、子どもたちの記憶には、幼稚園の先生たちの表情がどのように残っていくのだろうと案じています。もうしばらくの間、社会生活にはマスクが必要になりそうです。今の世の中、外では人の表情に向き合うことが難しいことを深く受け止め、ご家庭では、おうちの方々の愛情いっぱいの豊かな表情をたくさん向けてあげていただきたいと思います。

三月。子どもたちの成長を、一番強く感じる季節です。さくら組は、ちゅうりっぷ組にお別れのプレゼントとして絞り染めの弁当包みを作りました。（お別れ会まで、お子様には内緒にしてください。）でき上がったものは、どれ一つ同じではなく、どれもとても素敵です。１枚１枚を手に取って眺めると、どれも作った子そのものに思えて愛おしくなりました。まさに、みんな違ってみんないい、と感じます。本園の子どもたちが、これからも自分の良さや可能性を信じて歩んでいくことを、ずっと応援し続けたいと思います。

最後になりましたが、保護者、地域の皆様には、今年度も本園の教育活動に温かなご理解とたくさんのご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 自分なりのめあてをもって遊ぶ中で、自分の思いや考えを言葉で伝えたり、友達の言葉を聞いたりしながら、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
- 学級全体の活動に進んで取り組み、楽しさや満足感を味わう中で、進級への期待感をもつ。

＜さくら組＞

- 幼稚園生活を振り返り、自分の成長を喜ぶとともに小学生になることに期待感をもつ。
- 園生活や遊びに主体的に取り組み、学級の友達と互いの良さを認め合いながら、自信と自覚をもって行動する。